

平成 27 年 1 月 21 日

南の風 109

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

シュートについての続きです。

女子の準決勝に残った4チームの中で、センタープレーヤーについて書きます。JXでは言わずと知れた、渡嘉敷、間宮のツインがいます。デンソーは、108号で紹介した高田真希選手です。富士通は、篠原選手です。トヨタは、「この選手がセンター」と言ったプレーヤーは見当たりません。(タクティクスとして、完全なるセンターは置かないシステムなのでしょう。)

まず渡嘉敷選手です。何といても192cmの高さは強みです。フィジカルも強く、ボールのもらい方、ディフェンスとのポジション取りも安定感を増しています。吉田選手との裏への合わせは抜群のコンビネーションです。リバウンド力も年々増して、リバウンド20というゲームも数多くあります。また、ハイポストからのドライブからのユーロステップなど1対1のスキルも向上しています。さらに昨年、ハイポストからのジャンプショットの確率も上がり、ディフェンス側の脅威の的となっています。今や日本と言わず、アジアNO.1のセンターとして存在感を示しています。次に間宮選手です。フィジカルの強さは渡嘉敷選手に劣らないものがあります。ポストでボールを受けた後の、ドロップステップやポンプフェイクショットは、ミニバスから中高生のお手本です。リバウンドの強さにも安定感があり、今回のオールジャパンでも、相手のファウルを誘う場面が何回もありました。今シーズン、ハイポスト付近のシュートの確率がやや低いのが今後の課題でしょうか。富士通の篠原選手は、作シーズンの怪我から復帰してスタメンに戻りました。彼女の特徴は、ポストでのしなやかなショットです。元ジャパンエナジー(JXの前身)の、濱口典子選手を彷彿させるフックショットが持ち味です。相手のチャレンジショットをかわして、頭上から放つショットは脅威です。しかしまだ動きが本調子とは言えません。今後、さらにフィジカルに強くなると、プレーの幅(特にリバウンドに絡むなど)が広がっていくと思われま。高田選手については、108号に書きましたのでご覧ください。トヨタは、センターらしいセンターはいないのですが、中と外のバランスは取れています。スクリーンから崩してカットしたり、ドライブからキックアウトして3ポイントに行ったりするオフェンスが持ち味です。今シーズンは、外(3ポイントを含めた)のシュートの確率が悪く、苦戦していますが、リーグ後半の巻き返しが期待されます。

最後になりますが、シュート全般について書きます。印象に残ったのは、女子の3ポイントを含めたシュート確率が全体的に高かったことです。特に20才前半の選手です。

これは、「踏ん切りよく、リングに集中して打つ」とことと「良いシュートフォーム」が早い時期に定着していたことではないかと感じます。私の推測ですが、中学、高校時代から培われたものだと感じました。不断の努力や努力の蓄積といったものの賜物でしょう。ぜひ後半のリーグ戦に向けて、安定したシュート力を継続してほしいと願います。

シュートについては、何回も繰り返して書きました。オフェンススキルの中で一番大切で、一番難しいスキルです。改めて勉強になった、2015年オールジャパンでした。